

前期日程試験 総合理工学部 (数理科学科を除く)

【出】は「出題意図」を, 【解】は「解答又は解答例」を表す。

【解】はいずれも略解である。

1 【出】

- (1) ユークリッドの互除法を用いた最大公約数を求める計算力を問う。
- (2) 式の変形に関する計算力を問う。
- (3) 最大公約数に関する理解と思考力を問う。
- (4) ユークリッドの互除法と最大公約数に関する理解と思考力を問う。
- (5) 基礎的な文章読解力を問う。

【解】

- (1) ユークリッドの互除法から  $\gcd(12345, 54321) = 3$  である。
- (2)

$$\begin{aligned} a_m - a_n &= \sum_{k=0}^{m-1} 10^k - \sum_{k=0}^{n-1} 10^k = \sum_{k=n}^{m-1} 10^k = 10^n \sum_{k=0}^{m-n-1} 10^k \\ &= 10^n \sum_{k=0}^{m-n-1} 10^k = 10^n a_{m-n} \end{aligned}$$

- (3)  $x = \gcd(a_m, a_n)$ ,  $y = \gcd(a_n, a_{m-n})$  とおく。  $y$  は  $a_n$  と  $a_{m-n}$  の約数であることと  $a_m = 10^n a_{m-n} + a_n$  から  $y$  は  $a_m$  の約数でもある。よって  $y$  は  $a_m$  と  $a_n$  の公約数なので,  $y \leq x$  である。また,  $x$  は  $a_m$  と  $a_n$  の約数であることと,  $a_m - a_n = 10^n a_{m-n}$  から  $x$  は  $10^n a_{m-n}$  の約数である。ここで,  $a_n$  と 10 は互いに素であるので,  $x$  と 10 も互いに素である。よって,  $x$  は  $a_{m-n}$  の約数である。以上から  $x$  は  $a_n$  と  $a_{m-n}$  の公約数であるので,  $x \leq y$  である。前半と後半の議論から,  $x = y$  が成り立つ。
- (4)  $r_1 = m$ ,  $r_2 = n$  とおき, ユークリッドの互除法の説明における記号を用いる。(3) を繰り返し用いると,  $\gcd(a_{r_1}, a_{r_2}) = \gcd(a_{r_2}, a_{r_1-r_2}) = \gcd(a_{r_2}, a_{r_1-2r_2}) = \cdots = \gcd(a_{r_2}, a_{r_1-q_2r_2}) = \gcd(a_{r_2}, a_{r_3})$  である。同様に,  $\gcd(a_{r_2}, a_{r_3}) = \gcd(a_{r_3}, a_{r_4}) = \cdots = \gcd(a_{r_{k-1}}, a_{r_k})$  が成り立つ。  $a_{r_{k-1}} = a_{r_k} q_k$  から再び (3) を繰り返し用いると,  $\gcd(a_{r_{k-1}}, a_{r_k}) = \gcd(a_{r_k} q_k, a_{r_k}) = \gcd(a_{r_k}, a_{r_k}(q_k-1)) = \gcd(a_{r_k}, a_{r_k}(q_k-2)) = \cdots = \gcd(a_{r_k}, a_{r_k}) = a_{r_k}$  である。よって  $\gcd(a_{r_{k-1}}, a_{r_k}) = a_{r_k} = a_d$  である。以上から,  $\gcd(a_m, a_n) = a_d$  である。

(5) (1) から  $\gcd(12345, 54321) = 3$  なので, (4) を用いると

$$\gcd(a_{12345}, a_{54321}) = a_3 = 111$$

である。

2 【出】 平面図形, 特に双曲線や軌跡に関する理解を問う。

【解】

(1)  $k < -\sqrt{3}, k > \sqrt{3}$

(2)  $\left(-\frac{2}{3}k, -\frac{1}{3}k\right)$

(3)  $y = \frac{1}{2}x \quad \left(x < -\frac{2}{3}\sqrt{3}, \frac{2}{3}\sqrt{3} < x\right)$

3 【出】 不定積分と定積分についての理解を問う。

【解】

(1)

$$\int x \sin x \, dx = -x \cos x + \sin x + C,$$
$$\int x^2 \sin x \, dx = (-x^2 + 2) \cos x + 2x \sin x + C.$$

$C$  は積分定数。

(2)

$$f(x) = (x^2 + 2) \sin x + \frac{\pi}{3},$$
$$g(x) = (-2x + \pi) \sin x + \frac{2\pi}{3}.$$